

鴻巣西中通信

学 校 だ よ り

鴻巣市立鴻巣西中学校
鴻巣市大間 1 1 6 1 番地
令和 5 年 3 月 1 日

第 1 1 号

県公立入試問題(国語課題作文)が語りかけたもの

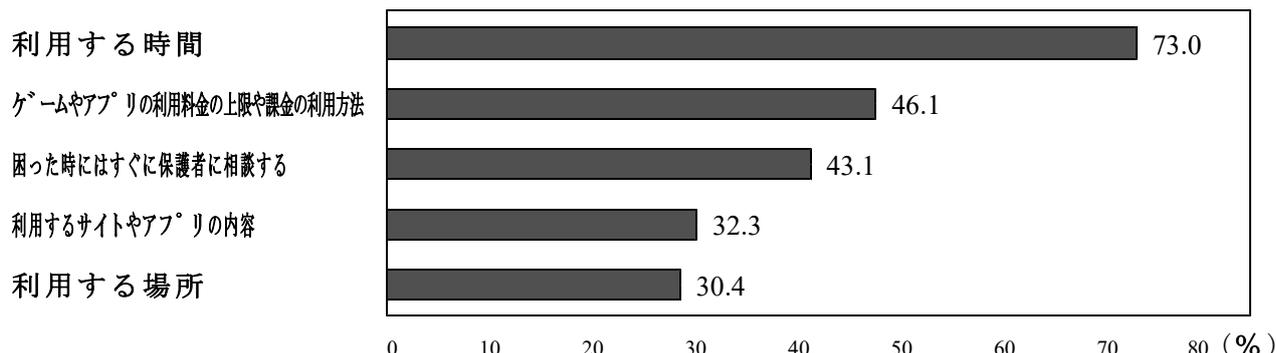
～「インターネットの使い方ルール」の上位は時間・お金・人間関係～

校 長 服部幸司



暖かい春の日差しと桜の開花が待たれる中、先月 22 日、県公立高校学力検査が行われ、本校も 123 名の 3 年生が受検しました。その中で、国語で出題された課題作文における「資料(内閣府『令和 3 年度青少年のインターネット利用環境調査』より作成)」は興味深いものでした。この資料は、内閣府が行ったインターネットの利用についての調査結果のうち、『インターネットを利用している』と答えた満 10 歳から満 17 歳の回答をまとめたものです。資料①と資料②が示されましたが、ここでは資料②を掲げます。

資料② あなたの家庭で決めている「インターネットの使い方のルール」にあてあまるもの ※複数回答



先日の新入生保護者説明会での校長あいさつでは、「子どもにスマートフォンを持たせる、あるいは、持たせた保護者としての覚悟」の話をしました。その覚悟の支えになる「家庭での使い方のルール」の主なもの上記の 5 つと捉えることができます。また、「ルール」は「親と子どもが互いに大切にしたいもの」と捉えることもできます。

今回の調査結果では、1 位が時間、2 位がお金、3 位が人間関係、上位に必ず入ると思われた「有害サイト閲覧禁止」や「利用する場所」は 4 位、5 位です。確かに、今、どの学校現場でも問題になっているのは、スマホを手放せない「スマホ中毒」、耳を疑うような多額返済を抱えてしまう「ゲーム課金問題」、SNSを通じた「いじめ問題」です。

iPhone 生みの親であるスティーブ・ジョブズ氏が、自分の子どもに iPhone を持たせなかった、というのは有名な話です。

1 位の「時間」が、子どもの思考力向上や人格形成を見据えた生活習慣の確立を意図したルールであり、2 位の「お金」同様、出費を抑えたいという親の都合だけのルールになっていないことを願うばかりです。端末使用の「制限」から「活用」に大きく動く時代に、生徒には、自身を制御(コントロール)しながら知識を獲得し、人格を高めてほしい、と入試問題(国語課題作文)は語りかけているように思えてなりません。

